

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1 会 議 名	令和 7 年度 第 1 回 姫路市総合教育会議
2 開催日時	令和 7 年 8 月 25 日（月）13 時半～14 時半
3 開催場所	姫路市役所北別館 5 階 教育委員会会議室
4 出席者又は欠席者名	〔構成員〕 清元市長、久保田教育長、山下教育長職務代理者、森下教育委員、中野教育委員、 三木教育委員 〔関係者〕 山田副市長、加藤総合教育監、山本政策局長、平山教育次長 〔事務局〕 高等教育室：中川室長、中田主幹、西本課長補佐、篠原主任 教育委員会事務局：藤保教育企画室長、谷本教育企画室主幹、藤岡総務課長、杉本総務課係長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴人なし
6 議題又は案件及び結論等	姫路市教育大綱のフォローアップについて
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

総合教育監	1 開会 令和7年度第1回姫路市総合教育会議を開会する。
市長	2 挨拶 (市長挨拶) 全国的な東京一極集中、かつ東京も含めて人口減少が加速している中、持続可能な社会をつくるための次の世代の人材育成、また、VUCA時代で生き残っていくための知恵を育む教育行政の重要性が再認識されているところである。本市におけるまちづくり改革という未来志向のビジョンの中で、一番注力するのが、教育を含めたひとづくり改革である。まちに未来への夢と希望を託す若者を育むことで、持続可能性の高いまちとなっていくと信じており、多様な個性を認め、多彩な才能を発揮してもらうためのプラットフォームづくりについて、多くの委員の皆様方にもご賛同を得て、さまざまな方向性を議論していただいた。昨年度の総合教育会議において、皆さんの熱心な議論を経て、本年3月に姫路市教育大綱を改定した。 大綱は、ふるさと姫路を大切に、未来を拓く人づくりの羅針盤としての役割を担っており、この大綱に基づいてその実現に向けた取り組みを活発化、推進していきたいと考えている。本日は、教育大綱の理念の実現のため、姫路市教育大綱のフォローアップについてご議論いただきたい。本市教育大綱は、単純に理念というだけでなく、その実現のための羅針盤としての活用や、教育関連施策との連携、人づくりはもちろん、まちづくりとも切り離して考えることはできない。教育施策も含めて総合的に推進するためにも、本市の人づくりの多様な主体の多くの方々とながら、本市の教育をともにつくり上げていきたい。現時点では、確かな答えがあるわけではないが、市民、企業、地縁の団体の皆さんと一丸となって取り組みを進めていきたい。 今日は、ご出席の皆様、教育大綱の目指す社会をより良い形で実現するために、さまざまな視点からご意見、ご提案をいただきたいと考えている。この会議での活発な議論を姫路の未来につなげるため、忌憚ないご意見をお願いしたい。
教育長	(教育長挨拶) 教育大綱が本年3月に改定され、教育委員会としては、第3期教育振興基本計画を策定したところである。両計画において、基本理念は人づくりという部分である。我々としても、すべての子どもたちが自分らしく学び、つながる教育を目指していくことで合意しているところである。 学校現場では、さまざまなニーズ、課題を抱えた多くの子どもたちがおり、学校だけではできないことも多い中、教育大綱の柱の一つに「社会全体で子どもの健やかな成長を支えます」という文言が入ったことは、とても大きく重いことと考えている。社会全体の仕組みの一つとしてどのように子どもたちを支えていくのか、短い時間ではあるが、さまざまなご意見を頂戴したい。
政策局長	3 出席者紹介
総合教育監	4 議事 姫路市教育大綱のフォローアップについて 資料1「姫路市教育大綱のフォローアップについて」説明
市長	資料2「姫路市教育大綱（案）」説明 ここで言うフォローアップは単に状況報告を受けるという意味ではない。教育分

	野では、PDCA サイクルのチェック機能をいかに回して修正していくかが大事である。コロナウイルスでの社会の分断を経験して、人口減少、少子化が急加速してしまったが、AI やリモートなど、様々な技術を用いながら、質の高い持続可能性のある社会を目指していく中で、学校教育現場も含めて環境を整えるために、施設を統廃合していくことになる。施設的な余力をマイナスにとらえずに、地域の人たちのまちおこしに活用するなど、ダイナミックに人口減少にも対応できるような形になればよいのではないか。一方で大学全入時代などと言われるように、成長過程での競争がない社会になっており、子どもたちが大人になった後、いきなり競争社会で生きていけるのかという危惧もある。様々な問題を抱える現状において、PDCA のチェック機能で、どのように大綱と計画とのずれを調整していくかが重要と思われる。企業人材や、人権の問題など、色々な専門分野を代表される各委員の方々には、何か提言をいただければと思う。
教育長	教育大綱の柱の一つ「社会全体で子どもの健やかな成長を支えます」について、なぜ社会全体で取り組む必要があるのか疑問に思われる方がいるかもしれない。教育を自分事として感じてもらうためには、何か仕掛けを作らなければ、社会全体で支えようという機運が盛り上がらないのかもしれない。行政として、共創の場を提供することができればいいと思う。また、社会全体で支えたいと思ってもらうために、社会をつなぐ大きなテーマを出していくというのも一つの方法ではないか。
委員	教育大綱に基づいての具体的な活動がまだ本格化していない時期に、そのフォローアップについて考えるのは難しいと感じている。社会全体で取り組み、我がこととして捉えてもらうには、教育が、私たちが生きている、もしくは生かされている社会の重要な要素であるという認識を持ってもらう必要がある。学校教育はもちろん重要だが、それと並行して、社会の構成員として教育などの社会要素に関わる責任があるという認識を持ってもらうための社会教育が重要だと思う。 また、ウェルビーイング指標や学校教育で数値目標を立てる際に、平均値だけではなく、分布状況を確認し、一人一人をカバーしていくことも必要になる。先を走っていく人のサポートも重要だが、そういったカバーをしなければ社会や教育環境も改善しないと思う。今も点数などの分布状況は平行して把握しているのか。
教育長	ウェルビーイング指標は、オープンデータを基にしており、例えば学校数などの客観指標が、必ずしも施策の充実を示しているわけではない。
政策局長	主観指標はアンケート調査を基にしており、元データを参照すれば、ある程度分布は分かると考える。客観指標については、例えば初等教育、中等教育という点であれば面積当たりの小学校や中学校の数、施設当たりの通っているお子さんの数などにより作られている指標になる。
委員	ウェルビーイング指標についてはそうなると思うが、教育委員会で把握している数字ではどうか。
教育次長	教育委員の皆さんにお示ししている公表資料については平均値だが、学校や地域ごとの分析結果もあるので、その分布状況から施策等を考えているというのが現状である。
市長	教育を統計的に判断するときに、カテゴリーによっては正規分布していない場合があり、集団の特性により、中央値が上下にずれることもあるので、データの取り方を工夫する必要がある。教育の評価スケールは非常に難しいので、点数だけでは

	評価しづらく、母集団の属性を踏まえた上で解析しないと、誰一人取り残さない支援策にはならないのではないかと。
副市長	ご指摘のとおり、ウェルビーイング指標で測っていいのかは、よく考えた方がいいと改めて感じた。何が適切な指標で、基準をどうするかについては議論を深めていく必要があると思っている。
市長	子どもたちの教育的な成長を一つの指標にするべきだと思うが、教育の環境のことを考えると、学校の先生などの考え方も重要と感じる。
委員	教育に関わる大人へのアプローチが重要で、子どもたちや社会に関わってまちづくりをするということが、大人にとっても、自らの新しい学びの場となる。その人の能力を消費していくという発想ではなくて、まさに社会活動をする中で自身の学びと刺激、成長の場づくりという意識で入ってもらえるような機会にできればよいと思う。決して一方通行で教える、教えられるでも、与える、与えられるでもなくて、必ず相互性があるはずなので。
教育長	教育というと学校教育中心になりがちだが、ご指摘の通り、社会教育も非常に重要である。
委員	教える側に立つことで自身も成長する機会になる。社会のいろいろな人に参加してもらおうという場づくり、機会づくりが要るのかなと思う。
総合教育監	社会教育の重要性という観点から、生涯学習大学校について、シニア中心の受講者の方の学びにはなっていたが、本来の目的である地域社会への還元や活性化について、これまでの取り組みが十分ではなかったという反省があった。今後学んでいただいたことを地域に還元して広げていこうという取り組みができないか、担当の市民局と議論をしている。社会教育を充実していきたいというのは、まさに議論していた内容とも重なるところである。
委員	姫路市以外の主体との連携について、私が小中学生の頃は、家族以外の大人の話を聞く機会があまりなかったと思う。例えば姫路の会社で働く社会人の方の、生き方や学び方、考え方などを学べる機会があってもよいのではないかなと思う。 また、こどもまんなか社会ということで、子どもがどう感じるかが一番大切だと思う。子どもたちにアンケートを取るのには難しい面もあるが、質問の仕方を工夫して、子どもたちの具体的な要望を聞き出すことで、学力の向上、子ども達の理解に繋がると思う。
委員	限られた予算やヒューマンリソースがある中で、どこに分配するかが問題にもなってくるので、何を目的とするのか、グランドデザインや到達点の共有が重要である。姫路市がこの教育大綱を通してどういうものを目指しているのか聞きたい。
市長	教育大綱は、教育という大きな流れの中で、国の根幹としての義務教育、学校教育をコアにしながらも、他の分野、例えば子育て部門など、人間の人生に関わる部門全てをカバーしている。予算については、姫路市全体の総合計画、その中の教育大綱、こども計画、教育振興基本計画というものが密接に関連し合っており、市役所としては教育に直接関係するものだけでなく、大綱の理念の実現に向けた施策の推進に必要な内容を執行していく形となる。

副市長	姫路市が目指している目的については、教育大綱パンフレットの「はじめに」の内容に込められていると思っている。本市に暮らし、本市で学ぶ一人一人が予測困難な時代を生き抜く力を身につけるといふ大きな柱と、姫路の社会全体、誰もが取り残されず、幸せ、生きがいを実感できる、社会全体が豊かさを感じられるという二つのバランスを、5つの方針の中でどう実現していくかということ去年一年かけて議論してきたと思う。その部分をもう少しクリアにする必要があり、何十年後にこの姫路にどういう人が残っていて、どのような社会になっているかということを描きながら、例えば予算や政策に軽重をつけていく必要がある。
委員	今 KPI を作っていくにしても、将来どうなっていきたいということを見えるところに落とし込まないと、いいも悪いも判断が難しい。今回のテーマは子どもから高齢者まで本市全員がターゲットになっているが、教育委員会が管轄する範囲が狭いという部分もあるので、具体的なアクションや判断を共有していきたいと思う。
総合教育監	これまでの教育大綱は各個別の政策と必ずしも対応するように位置づけられていなかったが、よりよい社会をつくっていくために、今年度から新しく教育大綱を活用していこうということがスタートラインになっている。既にそれぞれの計画で KPI を立てて、目指す目的に向けて施策を立案しているので、各計画と教育大綱とを整理して、結びつけて見える化していくという作業を今後進めていく。
委員	今現実目の前にある少子化という問題について、市長の発言にもあったが、施設の統廃合で逆に余裕ができるということを活用したり、また姫カツのように、地域と結びついて新しいことをはじめたりといった方策は有効ではないかと思う。また、今後は夏の暑さへの対策について、具体的な個別計画ということで提案したい。
市長	夏の暑さ対策として、令和8年度末までに全ての学校の体育館へのエアコンの設置を進めている。地域の様々な意見については今後のフィードバックで施策に反映していく必要がある。 なお、教育大綱のフォローアップ手法はどういう内容を考えているのか、アンケートなどを取るのか。
総合教育監	各計画や各施策、教育大綱との関係性を紐づけて見える化した上で、大綱に書いてある理念、理想に照らして、現状取り組もうとしている施策が十分なのかということを担当課と協議を重ねながら、予算編成にもらみつつ新たな施策を検討していく。今日いただいたご意見等も踏まえながら、総合教育会議において随時その状況等を報告した上で、ご意見をいただいて、よりよいものにしていきたいというのが大きな流れとなる。
市長	それぞれの施策に関連する法規などを紐づけて、KPI を設定し、例えばインターネットフォームなどを使用してアンケートを取るなどして、対象者の属性などを考慮し、ウェルビーイング指標で評価するのか。
総合教育監	詳細はこれから検討する。大きな方向性としてはご提示のような内容を考えている。
委員	今後、事務の進捗やタイムテーブルについて総合教育会議で報告があるのか。
総合教育監	可能であれば次回以降の総合教育会議に向けて作業を進めていきたい。本日はこのような方針で進めたいということをお伝えする機会とした。教育大綱をこれから

	羅針盤として活用していくという大きな意思決定、変更になるので、このタイミングでお示しした。
教育長	現状把握のうえ、今どういう状況で何が必要かを明確にするのが難しいと思う。
副市長	まずは現状の可視化があり、今後の取り組みの軽重をどうするのが初めて見えてきて、それからなぜ社会全体で支えなければならないのかについて発信し、理解を促していく行動も並行して進めていくことがフォローアップにとって重要だというご指摘をいただいたと理解している。
市長	まずは紐づけして施策を進めて、それぞれの KPI のデータを取るようになるが、2～3 年実施した後にもう一度その尺度でデータを取って、点数が上がればよかったという形でやっていく。もし点数が上がらなければ、別の方法を考えないといけない。
教育長	現状でポイントが高い分野もあるが、そこに予算を配分しないという判断も必要になってくると思う。どのように現状を見るかというのが重要。
委員	目標を達成したとしても、もう十分だということは一つもない、持続できる手法かどうかも含めて、アクションを起こす際に判断をしていきたい。一区切りついたら次の手がないという形ではなく、持続性のある手法を考えていきたい。
市長	大綱は何年ごとに見直すのか。
総合教育監	明確な年限はないが、今回は教育振興基本計画とこども計画の策定にも合わせ、結果的に 5 年経っての改定となった。最終的には市長の判断となるが、これだけ社会の変化が速い中で、教育振興基本計画とこども計画の改定と合わせて 5 年に 1 度程度見直すというのが現実的だと個人的には考えている。現時点において決まったものはないという状況である。
市長	大綱は皆さんといろいろな議論をして作成して、成熟した都市がやるべき責務、教育に関する責務のようなものを書いてあると思う。今後状況が変わってきた際に、その理念を少し修正することが重要になってくるのではないかな。5 年で見直すという見方もあるが、いずれにせよ教育に関するいわゆる憲法的な考え方を示したもので、定期的にフィードバックをかけていき、今後、姫路市として取り組んでいく内容を踏まえて、大綱を見直していけばいいかなと思う。
総合教育監	5 その他 次回の会議は、11 月 25 日火曜日午後 1 時 30 分から防災センター 5 階 災害対策本部対策室（多目的ホール）で開催する。
総合教育監	6 閉会 令和 7 年度第 1 回姫路市総合教育会議を閉会する。